

# 瀬戸市新世紀工芸館

## 研修生募集のご案内

(陶芸コース・ガラス工芸コース)



### ◎ 交通アクセス

- 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から南東へ徒歩約7分。
- 東名高速道路「名古屋I.C.」から車で約30分。
- 東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から車で約10分。

### ◎ 問い合わせ先

〒489-0815 愛知県瀬戸市南仲之切町81番地の2  
TEL: 0561-97-1001 FAX: 0561-97-1005  
URL: <http://www.seto-cul.jp/new-century/>  
E-mail: [sinseiki@gctv.ne.jp](mailto:sinseiki@gctv.ne.jp)





## 設備

新世紀工芸館の研修制度には陶芸コースとガラス工芸コースがあり、様々な地域出身の研修生がお互いに切磋琢磨して制作に励んでいます。

陶芸工房は2.0㎡と0.5㎡のガス窯を配置しており、またガラス工芸工房は吹きガラス技法を中心とした制作を行うための設備が整っており、どちらも大変恵まれた環境となります。

### 陶芸設備

ガス窯 (2.0㎡、0.5㎡) 各1基  
電気窯 (10kw) 2基  
電気窯 (15kw) 1基  
電動ロクロ 6台  
石膏真空攪拌機 1台  
石膏ロクロ 1台  
真空土練機 1台  
常圧土練機 2台  
吹付用ブース、ポットミル、電動乳鉢



### ガラス工芸設備

ガラス溶解炉 1基  
グローリーホール 3基  
除冷炉 1基  
ピックアップオープン 1基  
電気窯 (10kw、22kw) 各1基  
ベンチ 3台  
ガレージ、ウォーターサンダー、ベルトサンダー、小割り切断機、ダイヤモンド研磨機、両軸研磨機、平盤、サンドブラスター



## ワークショップ

新世紀工芸館では、一定のカリキュラムを持たず研修生が自己課題を設定し、二年間の制作活動を行います。年に数回、研修生の要望を参考に様々なジャンルの作家や評論家を招き、ワークショップや作品講評、スライドレクチャーや工房見学などを行っています。



### 近年の特別講師 (陶芸コース)

穴山大輔 (陶芸作家)  
梅本孝征 (愛知県立芸術大学准教授)  
岡崎達也 (陶芸作家)  
加藤清之 (陶芸作家)  
城戸保 (写真家)  
清野祥一 (造形作家)  
大長智広 (愛知県陶磁美術館学芸員)  
長江重和 (陶芸作家)  
西村陽平 (日本女子大学教授)  
吉川正道 (名古屋芸術大学教授)



### 近年の特別講師 (ガラス工芸コース)

井上剛 (大阪芸術大学非常勤講師、武蔵野美術大学特別講師)  
江川野智典 (ガラス作家)  
舛田正樹 (ガラス作家)  
高橋禎彦 (多摩美術大学教授)  
辻和美 (ガラス作家)  
辻野剛 (ガラス作家)  
Peter Ivy (ガラス作家)  
本郷仁 (富山ガラス造形研究所教授)  
光島和子 (ガラス作家)  
行武治美 (多摩美術大学非常勤講師)



## イベント

瀬戸市には年間を通して多くのイベントがあります。瀬戸市最大のイベントであるせともの祭では研修生が日頃制作した作品を展示販売します。その他にせと陶祖まつりや招き猫まつりや雛めぐりなどがあります。定期的に行われる陶芸体験やガラス体験では、研修生がアシスタントを行っています。



## 研修生作品展

毎年年度末に、陶芸コースとガラス工芸コースの研修生が日頃の研修活動の成果を発表する展覧会を開催しています。研修生全員で企画から話し合い、展示を完成させます。また展示期間中には特別講師を招き、講評会を行っています。その他に研修生が日常的に展示販売できるスペースを設けています。



## アーティスト・イン・レジデンス (芸術家の滞在制作)

国外の優れた陶芸作家、ガラス作家を招聘する「瀬戸国際セラミック&ガラスアート交流プログラム」が2015年まで開催されました。2016年はあいちトリエンナーレの参加作家が陶芸工房にて制作されました。同じ工房で制作することとなる研修生にとって海外作家との交流は大変刺激となります。

(来年度未定)



公開制作の様子 (Anna Misowsky/ガラス作家)

## 研修後の進路

陶芸コース研修生の多くは、瀬戸市内に多数ある貸工房を利用したり、個人工房を設立して作家活動を続けています。またガラス工芸コース研修生は、工房に就職したり (富山ガラス工房、安曇野アートヒルズミュージアム、岡崎ガラス工房・葵、徳島ガラススタジオなど)、金沢卯辰山工芸工房で研修を続けたり、個人工房を設立するなどして制作を続けています。



瀬戸市内に工房を構えた研修修了生